

TAC設定対象魚種について

1. TAC設定対象魚種

- (1) 我が国においてTAC対象魚種は、以下の基準のいずれかに該当するものであって、漁獲可能量を決定するに足るだけの科学的知見が蓄積されているものの中から選定。
 - ① 採捕量及び消費量が多く、国民生活上又は漁業上重要な海洋生物資源
 - ② 資源状態が悪く、緊急に漁獲可能量を決定すること等により保存及び管理を行うことが必要な海洋生物資源
 - ③ 我が国周辺海域で外国漁船による漁獲が行われている海洋生物資源
- (2) 現在、サンマ、スケトウダラ、マアジ、マイワシ、マサバ及びゴマサバ、スルメイカ、ズワイガニの7魚種がTACの対象。
- (3) これら7魚種の漁獲量は、国際的な資源管理の対象となるカツオ・マグロ類等を除く、我が国TACの対象となり得る魚種の漁獲量の約5割を占める。

2. TAC 魚種以外の広域重要魚種

- (1) 現在のTAC対象魚種に次いで漁獲量が多く、国民生活上又は漁業上重要な魚種として、カタクチイワシ、ホッケ、ブリ、ウルメイワシ及びマダラが挙げられる。
- (2) このうち、カタクチイワシ及びブリについては、全国各地で漁獲され、各地域の漁業実態に応じた管理が行われており、本年より、太平洋、瀬戸内海、及び日本海・九州西の各広域漁業調整委員会において、資源管理のあり方について議論に着手したところ。
- (3) ホッケについては、近年、漁獲の主体となっている道北系群の資源状況が低位・減少傾向にあることから、北海道において、ホッケ道北系群を漁獲する全ての漁業者が参加して自主的な漁獲努力量等の削減に取り組んでいるところである。
- (4) また、ウルメイワシ及びマダラについては、漁獲される地域が比較的限定さ

れており、今後、関係者間の協議の場を設けて資源管理のあり方について検討する予定。

- (5) これら5魚種については、広域漁業調整委員会や関係者間により、引き続き資源管理のあり方について検討を行うこととし、国の資源管理指針に5魚種に関する基本的な取り組み方針を記述することとしている。
- (6) 5魚種をTAC制度の対象とするかについては、上記の検討状況を踏まえて判断すべきであると考え。なお、5魚種の資源管理のあり方に関する検討状況は、適宜、本資源管理分科会に報告することとした。

(参考1)

広域漁業調整委員会におけるカタクチイワシ・ブリの管理に関する主要な意見

1. カタクチイワシ

- ① 成魚だけでなくシラスも含めた議論をする必要があり、資源管理を総合的に行う体制作りについて、国として対応していただきたい。
- ② 太平洋側の資源動向を注視する必要がある。今後、カタクチイワシも含めて魚種交代が見られるのではないか。
- ③ シラスから始まっていろいろな用途が多く、関係者が多岐にわたる。知事管理漁業が殆どなので、まず県での対策をまとめるべき。
- ④ 関係漁業者等が協議を重ね、漁獲サイズや操業時期などのきめ細かい調整を行っているが、環境による影響が大きいこともあり、資源管理には困難が伴う。単に漁獲枠を決めれば良いというものではない。
- ⑤ 十把一絡げに全体に制限をかけるのは非常に厳しいのではないか。漁業者に対する納得のいく説明が重要である。

2. ブリ

- ① 資源の増えている現在はともかくとして、減ったときに動けるようにすべきであり、その場合には国がもっと前面に出るべき。
- ② 獲り過ぎないように、漁業関係者が共存できるよう、今後の管理のあり方について考えていくべき。
- ③ 資源の再生産を支えている海洋環境の変化についても配慮しながら検討を行うべき。
- ④ 地域で獲れるサイズも違うので、関係者が話し合い自主的な規制でいくのが望ましいのではないか。
- ⑤ 数量管理が困難とされる定置網の漁獲が4割を超え、資源管理もなかなか難しい。
- ⑥ 資源も安定しており、TACありきの管理方策は現時点では必要ない。現在の措置も立派な管理の一つ。

(参考2)

カタクチイワシ・ブリの資源管理に関する検討状況

平成25年2～3月：日本海・九州西、瀬戸内海、及び太平洋広域漁業調整委員会において、カタクチイワシ及びブリの資源状況、漁業実態及び資源管理について水産庁から説明し、管理のあり方について議論を開始。

平成25年2月27日：第25回瀬戸内海広域漁業調整委員会

3月8日：第18回太平洋広域漁業調整委員会

3月13日：第21回日本海・九州西広域漁業調整委員会

5月：これら広域漁業調整委員会での検討状況を、水政審第61回資源管理分科会に報告

7～8月：関係都道府県からカタクチイワシ及びブリの資源管理に関する情報・意見を聴取

11月：提出された意見等を基に、各広域漁業調整委員会において検討

平成25年11月6日：第19回太平洋広域漁業調整委員会

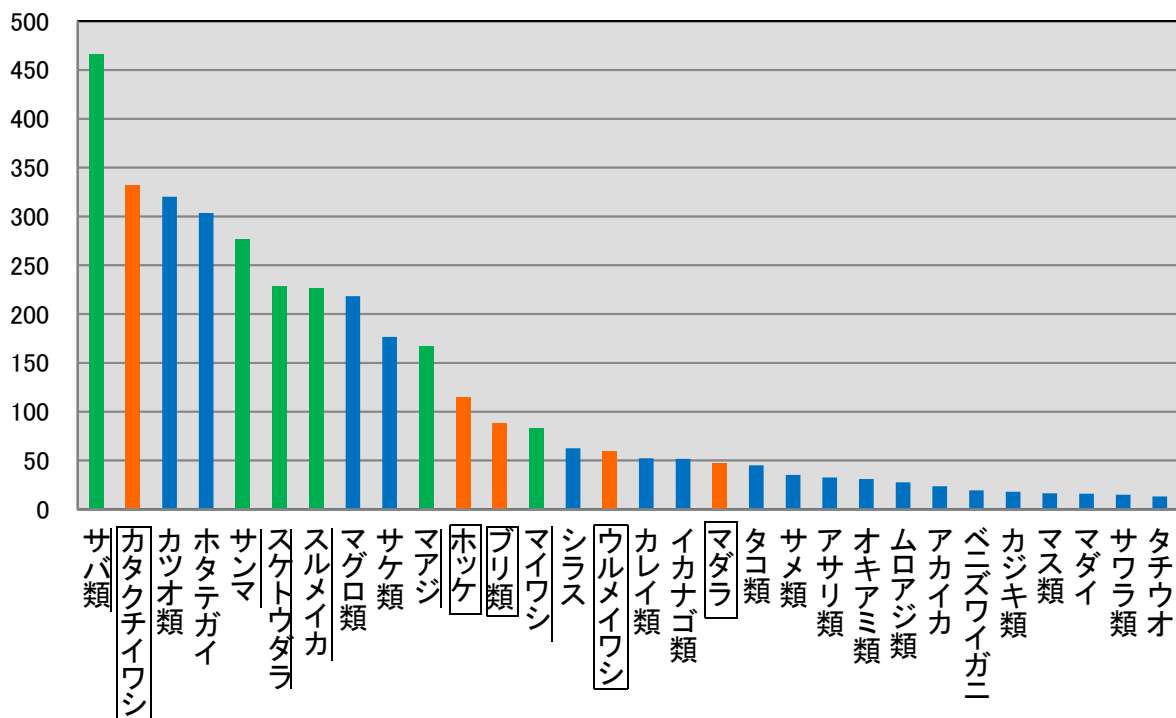
11月11日：第26回瀬戸内海広域漁業調整委員会

11月19日：第22回日本海・九州西広域漁業調整委員会

11月：これら広域漁業調整委員会での検討状況を、水政審第63回資源管理分科会に報告

平成26年2～3月：各広域漁業調整委員会において検討を継続(予定)

千トン 魚種別漁獲量(上位30種:5カ年(平成19~23年)平均)



◎海面漁業漁獲量のうち、上位30種の漁獲量

(魚種分類は生産統計年報によっており、種を分類できない「その他」を除く)

(傍線のもの現在のTAC魚種)

% 漁獲量に占める都道府県漁業の比率

